

「ちがいのちがい」をべんきょうして

愛川町立中津第二小学校 二年 萱^{かや}世^せ理^り奈^な

わたしは今日、学かつの時間に「ちがいのちがい」をべんきょうして、すきなものをすきでいいんだと思いました。

先生がテレビで、「あってもよいちがい」と、「あってはいけないちがい」のクイズをうつしました。友達と話しあつて、すきなものとくいなこと、ちがいは、「あってもよいちがい」ということになりました。お花がすきな男の子も、プラモデルがすきな女の子も、それでいいのです。

でも、男だからおもいものをもつ、女だからりょうりをする、ときめるのは、「あってはいけないちがい」です。おもいものは力もちの人がもつてあげればいいし、りょうりはとくいな人がやればいいんだね、ということが分かりました。

さいごに、いろいろなしごとをする人のしやしんを見ました。わたしは、女のじえいかんがかっこいいなと思いました。男の人たちの中でがんばっていますし、日本のあんぜんのためにはたらきたいという気もちも、すてきです。

わたしは前からずっと、ドーナツやさんになりたいと思っています。大すきなドーナツで、おきゃくさんへえがおになつてもらいたいです。男だから、女だからとちがいをつけずに、一人一人のすきなものを「いいね」と言つてあげることが大切なんだと思いました。